

8番ホール

苫小牧市医師会

わだ けいじ
和田 啓二

先日ゴルフ番組を見ていたとき、どこかで見た風景だ、と以前プレーしたことのあるコースを思い出しました。そこは有名なアメリカ西海岸にある Pebble Beach Golf Links。その8番ミドルホールはグリーンから見ると断崖絶壁の上から第2打目を逆光の中打ってくるような絶景のコースになっています。

テレビでは断崖絶壁の上での映像でボールの位置は赤い線の崖側、崖に向かってやや斜面の途中に見えます。落下防止の柵などはありません。選手はアメリカのトッププロのジョーダン・スピース。何時もですとプロ、アマ問わず絶対にその位置からは打とうとしません。赤い線と崖の間は1メートルにも満たない場所で、このとき同伴競技者を含めキャディは追加一打を負荷して後方からのプレーを勧めたようです。というのも崖から落下しますと真っ直ぐ下まで約20メートルの高さがあり下は海が入り込んでいます。奥行き（グリーンまでの距離）は約100メートル位あります。引っかかる場所もあります。しかし、トッププロは1打の重みを知っているので何とかできる、という判断だったようです。私もプレーをしていて崖のない斜面の普通の左足下りの状況でさえ時々体制を崩して転倒したりすることがあります。今回はその状況で体制を崩すことは許されないわけです。

私が数年前にこのコースを周った時、8番ホールはティーグラウンドから崖の手前までは表示で約230ヤードで、プロはアイアンで第1打を攻めアマにもならない素人はドライバーです。その時はティーグラウンドが少し前に出ていたような気がしましたが私はドライバーで気持ちよく振り抜きました。ボールの行き先はフェアウェイが少し山なりになっていて落下地点は見えません。初めてですから第2打地点が崖の手前であるとは聞いていますがどの程度か計り知れません。キャディは付いていません。4人で1打目を打ち終わりフェアウェイを歩いてボールを探しながら進むと3人のボールは見つかりましたが私のはその辺にはなくどうも崖に向かって転がっていったようです。崖に向かって近づいて行くと徐々にその全貌が見えてきて遥か下の湾の恐ろしさに立位ではエッジの近くまでは行けそうありません。崖の深さに脅威を感じ20メートルが100メートルにも見えます。しかしボールを確認するためにはどうするか、と考え四つん這いになってエッ

ジまでゆっくり進みました。下を見ると目眩するくらいの高さでボールを探すどころではありません。後退りしながら5メートル位後方に立ちゆっくりとため息をついて、1打目のボールは諦めリブレースエリアに新しいボールを置きました。ところがエッジから3メートル位離れたエリアですが、打とうとすると今度は視界の恐ろしさに足がすくんで震えてしまい第3打目も崖の下でした。足の震えはその後も収まらずボールをさらに後方に置き、崖の左側をそろそろとアイアンで進みました。その晩ホテルに帰ってからも恐怖心が取れなく眠れませんでした。ゴルフを始めた頃より一生に一度はプレーをしてみたいゴルフコースと言われ願いが叶ったのですが、私は一生に一度しかできないコースかも知れない、とつくづく思いました。あの崖から落ちた人はいないのだろうか、と聞きましたがそのようなことは一度もないとのことでした。本当かな。

スピース選手ですが、第2打を体重を崖の反対側にかけて打ったようです。スウィング後ボールは真っ直ぐ飛び、その後身体は崖の反対方向に倒れかかり落ちないで済みました。ボールはグリーン横に行きナイスショットです。ただその後のインタビューで子供のことを思ったらできなかった、と話していたようです。足がすくまないで打てたのかな？と同じ人間だったら思ってしまう。一度その湾の景色を見てしまうと足の震えは止まらないと思います。プロは違うのでした。

久々に思い出したコースに自分の経験を重ね合わせましたが、再びプレーしたいなと思う今日この頃です。



8番ホール 手前グリーンからの写真です